

2018/02/15 初稿  
2018/02/17 二稿

原作・さくらみゆ  
脚本・さくらみゆ  
かわいじたかわい

【脚場人物】

おひの	/	高野麻里佳
みせり	/	石原夏織
かえで	/	金元寿子
＝ヘル	/	石原夏織
ト着壁の呪	/	飯沼南美
喫茶店の呪	/	石川凜果
Hロケボイス	/	河津奈奈

## ■ 第一話『まわりといけない身体』

まわり「あの田田が覚めたり女の变成了つた」

の田・部屋の中の環境部。まわりの寝息。つかつか寝返り

まわり「……ね」としゃべる……」

の田・つかつかと布団の中で動く音、やがて止んで

まわり「……ね、かわいい、かわいい匂か……」

の田・布団の上で起き上がる

まわり「らわあ……今日やつべ寝た……ここ」

「ホ、ホ、ホ、あーあー、なんか声が変だわ。  
風邪かな……かこや頭も重こよひな……ひーむ」

の田・髪が音を立てる

まわり「…………うわあ、なんだいのやせやせやせ」

の田・髪を手に取り、ひっぱる

まわり「こでじでじでー……つー……しわ…ホンの髪ーー。

なこだじつや…腰あで伸びしゆかー…じいじいじ重こわけだ…  
…つじ、やれよつ鏡つー……お部屋に無こつ……ひうだい、スマホドー。」

の田・スマホで自撮りして確認

まわり「こなは……女のやつーだ、誰ーー……ホンーー。」

まわり「いやこや寝か着か……

ホン、緒日まわりはHロゴを愛するの孤高の田や警備員。  
わわりと男だ。いのよいな美少女であるねががなー。」

まわり「……いつも、特殊マイクー。つて……おおせ繩てじゆよな…  
れりーのひひやかなうたつの壁ひみ。……」

の田・ひじるみ、ヒ膚を触る効果音

まわり「お……」

の田・ひじるみ

まひろ「ふ、ふおおお……  
「これが……本物……なのかへ……わからん……触った」とないし……  
そういうば……下は……どうなつてるんだ……？」

SE：鼓動（ヂックンヂックン）

まひN 一か……確認た……((J▼S)) 確認……あめた下……」

ノルマニヤノハタチノノミコト

SE・バーンと勢いよくドアが開く

みはり「お兄ちゃんおはよー」

まひN (少し間かあ) | ピヤツ……」(息を飲む感じ)

S曰：「三才の空氣に

卷之三

みせり 「…………」

まひろ「ち、ちち、違うんだ！」

卷之三

卷之三

卷之三

スミノ下書

みはり「…………るーむ、…………うめうめ…………」

「……………」

みせり「うんうん、まずは成功ね。あ、もう隠していいよ。」

まひる「な、ななな……」

SE：ズボン履く

みせの「ルネ」にてお見せください。おいかわの回数の少い方から順に…」

おれの「…………お、おせり…………」

みはり「うーん、見た目の中学生…ううとこかな?」

めわの「…………やっや…………」監督つたなー」

みはり「にひひ。夕食にちよこつとね」

まむりセノ「じいつは緒出みはり。飛び級で大学に入り、怪しい研究をしているおかしな妹だ」

おひり「お、おおや……なん？」とを…。兄をなんだと思つて」

SE・グサツ

みほり一せん二年も外は出ないでいかかわしいケーブ三時

まひろ（想像）「みんな今日も配信見てくれてありがとう～！」  
えー～もつとみたしのお？～ふ、こいこからは有料でーす。」「

「……………」  
「……………」

みはり 一違へわ！」

まわる「お…女の匂の…」

まわる「ふ……ふふふ……」

みはり「……お、お兄ちゃん？」

SE・マウスクリック音、PCゲームを起動する。（起動ボイス？）

みはり「うー……結婚エロゲーなおー?」

まわる「ふはは、紳士の嗜みだ！ほーら、早く出でた出でた！」

みほり…………（呆れ）。そうだお兄ちゃん、ひとついいと教えたげる……」

明治文庫

みほり 一女の子の快感 二 ね  
男の1000倍にこなついた 三

卷之三

みたら、一もじお兄ちゃんが急にそんなの体験したやつだ! あ……  
刺激が強すぎで……頭がパーになるから、気をつけてね♥」

SE・部屋のドアが閉まり、みはりが去っていく足音  
SE・エロゲボイスの前に毎回クリック音

「……………」

エロゲ「あつ、あつ、あつ」

おひな 一  
う.....

エーゲーたぬき……そんなの、恥ずかしい……

モルヒネの作用

SE:エロゲーを終了する。前のボイスの途中でふつ切りとかで

「あらわし、かわいい、生殺しだあ、」

SE・日が変わって翌朝。ドアが開く音

みはり お兄ちゃんおはよー!

モルヒーネー

みはりーとやったの!!(死んだ魚みたいな顔して…)

まひろ「うつ、ううつ……突然夜の楽しみを奪われて……生きる気力を失った……もう死んだも同然だあ……」

みはりモノ「うわあ、めっちゃ効いてる……」

みはり「ほ……ほりー。折角だしね、この機会に何か新しいことに始めてみたら? 例えば……資格の勉強とか」

まひろ「資格…かあ…」

SE・ふとに潜り込む音

まひろ「取るか……一級在宅士」

みはり一て、手強い……。

はあ そん簡単ははいかないか

(BAM) 100

SE・別の田、まひの部屋

みゆき」と「ひたの  
お兄ちゃん」

黒で黒の禁欲生活で、女は女體の黒い

心のままに自分の気分を表すのが、アーティストの仕事

吉岡道之助  
九日  
生道  
の  
力  
か  
の  
見  
し  
力

この前無理矢理着させた女の子の服も  
最近はもう少し上品な感じの服が多い

三一ノトハラウタノリ

みはり「…そうだ、気分転換したいなら良い方法があるわよ」

まわる「えつー。」

みはり「ただ、お兄ちゃんにはかなり難しいかも……」

「おお、なんでもあるな!! 教えてくれ……!!」

みはり 「なんだか…」 嘩をつなの……

…せり、外に出るところ機会じゃなー」

みはり 「吸血鬼か……じゃあ、部屋でゆるがい流すー」

みはり 「…………ひー… ひー…………ひー…………」

の三…場面転換 玄関のドアを開けて、外に出る

みはり 「ひひ… 脇じー…」

みはりモノ 「一年ぶりの外出がこんな理由にならなんて……」

みはりモノ 「あつがと、ボーネズリフ…」

みはり 「…まあお兄ちゃん…軽く走って気分スッキリ…」

みはり 「ま、待つて…」 一緒に…」 (歩えながら) (キャラクタ)

みはり 「お、お兄ちゃん…」

みはりモノ 「なんかかわい…」

みはり 「…………お兄ちゃん…最初からだからね♥」

みはり 「ひ…」

みはりモノ 「はは…」 れじやあむか、じつちが妹なんだか…」

の三…場面転換 河原沿いのワンハングコース

みはり 「じゃあ」の辺りで軽べジョギングね。川沿いのコース、気持ちいいよ

みはり 「は…は…」

の三…走り出す一人

みはり 「こ…ひ…こ…こ…」

みはり 「はあ…はあ…はあ…」

かよ…か…みはり…」 速い…」

みはり 「あ…」 ねえ、体力落ちてるよね…こんな意味で

みはりモノ 「…………万全でも追いつかないっての

の三…足音が遠のキャラローグと回想へ

まひり「——みはりはおしゃれで良くて出来た妹だ。」

まひり「昔から運動が得意で、中学生陸上の大会で記録も残している」

まひり「もちろん勉強も抜群。

「そんな妹がいて羨ましいって…とんでもない！」

『みはりちゃんって凄いねー。あつとお兄ちゃんも素敵なんだいいなあ』  
みんな姉と共に、必然と厳しくなる周囲の視線。

優秀な妹の兄といつ重圧感…。

わうしてだんだんオレは……』

のE・回想アウトレット音が戻る

まひり「あのあづま、女の子の身体にそれで妹のおかかやに……おや…」

まひり「……でも実のところ、最近なんだか気分が軽い。

自分が身の丈に合った位置に収まつた感じがある」

のE・足音のペースが落ち始める

まひり「わいお兄ちゃんはおしゃれにして、いっしのめめ……」

のE・足音のペースが更に落ち、やがて止まる

みはり「……お兄ちゃん…」

まひり「…………みはり」

まひり「乳首が痛い……」

みはり「…………く…あ、なんで着けてないの…。かやんと渡したのに…。」

まひり「だ…だつて……アレだかねえの…も抵抗が……  
最後の一線ついつか……」

みはり「おやんと着けなつと走つて擦れる…将来離れたりやうな…。」

まひり「知るかーー。」

みはり「はあ……でも丁度いいか。今から買ひに行きましょ、ブリッジャー」

まひり「…………」

まひり「し…下着売つ場…お、おこ、入つちやマズい…。」

みせり「ふふでしょ、女の子なんだから。まあ、これとかかわらうよ」

店員「いらっしゃいませー」

みはり「あ、西園さんー。」の子、初めてなんです。

教えてあげてください！」

あひる…………へえ！？

「おおかせたわい」の意味

の田：運行されて声が遠くなつていい／＼

讀書記

卷之三

卷之三

國朝詩人集卷之二

（小説）「アーヴィングの死」

おじい「あ……あう……うめえ——ッ——！」

SE：更衣室のカーテンが開く音

みせの「あいへん」と着けられた?」

「うう…………」(チーン)

みはりーお、いいじやん、  
スボフテ!

「おお、おひるが帰つて来れた……愛しの我が家よ……」

SE・ボフツと布団に倒れ込む音

まひろ「つ、疲れた…………すう…………すう…………」「

SE…その声が寝息を立て始める

の三…ドアが開く音

みはり 「お兄ちゃん、先にシャワー……って寝てしまふやつ……  
やつ、布団かたなこと風邪ひこりやつよ。」

の三…布団をかわる音

みはり 「あら……今度は頑張ったね お兄ちゃん。一歩前進、かな。」

の三…おひさまドアが閉まる音

みわいちゃん 「オレが女のところなってから数日が経つた。  
遺憾ながらこまだむとに眠る様子は無い……

だかずの生活は、以前に比べてずいぶん刺激的だ。  
妹の妹つてのも案外悪くない——かもしけない」

みはり 「お兄ちゃん… ちょっとお化粧してみない？」

みわい 「ひえ…」

みはり 「ほーい、怖くない怖くない！」

みわい 「は、うりへへ」

みわい 「やいはの町へ戻してくーーー。」

〔田舎が大きくなつて、おわり〕

## ■ 第2話『まわりとロールプレイ』

のE・ゲームの音楽(MMORPG)、マウスカコック音、効果音など  
まわり「……まう……まう……」（Eの音）（ゲームʃトʃル）  
のE・扉が閉じ音。

みはり「お兄ちゃんおせよー。」

まわり「……えーあー、おせよー……」（Eのない返事）

のE・ゲームの音が続く。

まわり「うあうと……」

……うそ、よしう……」（ゲームʃトʃル）

みはり「かようとひようと……  
珍しく起きると思ったら、朝からゲームなの……。」

まわり「なにう？　おいおこみはり、みくびねなよ。  
……昨日の夜からだ！」

みはり「……」（呆れ）

まわり「Hログが封印されたから、代わりにストーグを始めたんだから、  
終わりが無いから無限に遊べてしまつ……。  
（れは悪魔的だあ！）

みはり「もへへ、徹夜なんて身体に悪いよ。  
お肌も荒れちゃうし……女の子なんだから」

まわり「女の子扱いすんな～～～！」

みはりモノ「（）れじやあHログのほうがまだ健康的かも……  
……こや、それは無いか」

みはり「……はあ。ほあいこわ。

私今から買い物行へけど、晩（）飯何か食べたいものある？」

まわり「晩（）飯？　お肉！　やっぱ肉だなー。」

みはり「ええー、昨日もハンバーグだったじゃない……」

まひろ「知つてゐるか、みはり？

ウシは処女の肉が一番美味しいんだって！」

まひろ「黒毛和牛のステーキにしよう! あ、いやがうやがなダメ!」  
霜降りがいいなあ…… 旨味が全部逃げて

「この本読んだ漫画で書いたし」

みはり一ええ、なにそのお肉への情熱

まひろ「あ、それにコーラと……何か手が汚れないお菓子一  
ゲームしながらつまむやつな。

あと田舎とか一……ホントアイマスクもここなあ。  
やつぱば田が疲れぬかられあ。他にせえ一つとお……」

みせつ「ねえ、かみいとお兄ちゃん! そんな一度に叫ねられてお……  
……」おひるひ。腰巻ひしゆのお黒いの!?

...の間の二カ月、この時期の出来事

まひろ「おねがういつー（媚び）

みせつ 「…………（ねむわくと物の）  
い…………いやいやいや！ そんな回数にやうやうしてや——」

まわる「……だねえ~?」

SE・扉がしまり、みはりがにやけながら去つて行く

みせの「ソソ、ソシ、ソシシ…」

まひろ「おお……効果はバツグンだ……！」  
うーむ、やつてみるもんだなあ。

「ふふふ……」これは良い技を覚えたぞ。  
うんうん、使える武器は使っていいかないと

SE・マウスクリック音のあと、ゲームの音楽再び。

まひろ「……さて、邪魔者もいなくなつたといひや、  
氣を取り直してストゲ再開……！」

SE：カチカチツ、カチカチツ

まひろ ふわあ う

といふ流石にかよいと嘆へた。あたなも……」

SE: 力子  
SE: 力子

そのまゝ寝落ちして夢の中へ寝入るといふ演出效果など

の印：雜誌（サムライ）

昆観院のああアソタヅー風の街並  
ほひる一…………んん!!(?) なぐたこ(?)に…………

「ハッ！」  
わがだ……ハッ！」  
寝潜りじて夢の中へわがだ……ハッ！」  
なぬが、ハッ！」

「うう……」のやわらかな感触……。

はあ、嘆いても仕方ないか……。

あ、そうだ、どうせ夢なんだし、  
ここは敢えてかわいい女の子キャラを演じて  
みはりを倒す練習にしようかな。

うむ、これこそロールプレイってやつだ！  
……いやいや、ネカマじやないし！」

SE；誰かが走って近づいてくる

ミハル「まひろちやん！」

まひる「うええつー? .....だ、誰ー?」

ミハル「やだなあ、僕だよお」

「うむ……まったく知らん！  
でもステータスの表示を見る限り、  
どうやら同じギルドの仲間みたいだな。  
少年剣士の……名前はミハルかあ。  
うええ、なんかみはりっぽいな……」

ミハル「あのぉ……おわいわいさん、今日は向かうで飲むかな……」

おわい「へ、吟定へ。吟定ついで言われてもなあ……あ。……「ホン！」

……んーうじょ、わたし、ちょっとお腹あこたかも〜〜。」

の田・ナラナリへ

ミハル「……。じゃ、じゃあ、一緒にお風なごとむへー。」

僕がなにか奢るから……」（嬉しそう）

おわい「やたつー 成功だー。ふふ、ちよびこなしこつ。しかしこれ、敢えて一度引く……！」

おわい「本物。いーんでもいいか、みんなの懸こぶる」

ミハル「遠慮しなうでー。せり、叫びだー。」

おわい「あー、待つて〜」

おわい「ふら…これで好感度アップだ…！」

の田・移動。飲食店（酒場）の雑踏 肉の焼けた物

ミハル「せー、えい。フライドポテトのステーキだよー。」

おわい「おお～肉だあー もすがは夢の中……（シタウ）……おつといけないこかな……」

……のわあ、ありがとー。美味しかったなあ」

おわい「いただきまーす！ おもはむ……んく〜〜ー！」

ミハル「ん、良いお店知ってるね！」

ミハル「あはせ、よかつた。こじは素材が良いんだ。

知つてゐる。ドリーフンは処女のお肉が一番美味しいんだって」

おわい「おこねこ、もつかで聞いたやつだな……。ん〜〜、こじは、こじはー！」

おわい「しょ、処女……。やひ、ミハルくん……腹がかかる……。」

ミハル「……ハッ！」

あ、いや、えい、あわわ、変なじつとおもね……。」

まわのモヘ「ひひひ、赤くなつてゐるなんかかわいいかも……」

ミハル「あ……あのぉ、それで、今田いの後なんだか……」

まわの「このあとで、つぶん、そうだなあ……

折角つアルな夢なんだし……」

……あ、一緒に派手なモンスター討伐なんていひふ。他の仲間も呼んでやあ……」

ミハル「え、他の……。

あ、あのつー。もし暇かつたうだかど……  
一人で、のんびり薬草採取のクエストとか……」

まわの「……ふたりで?」

まわのモヘ「…………ハッ！ じふつ…………まわかめしに氣があぬやじやー。ふ  
え、じうしょ…………」

ミハル「…………だめ、かな…………」（キツキツ）

まわの「ひひひ…… む、むわー  
…………」ようがないにやあ……いいよ。」（照れ）

まわのモヘ「あ、あれー？ なんかこれ、逆じゃない……？」

のぞ…風の音、カツカツと流れる草の音

ミハル「んんっ……（背伸び）

良い天気だねえ。

近くに他の冒険者もいないし、この辺にしようつか

まわの「おお、これはメキメキ草！

ハイポーションの材料だよね。大漁だーへ  
むふー、これはこれで案外楽しいかも」

ミハル「はは、よかつた。」

……ん？ 見てみてまひろちゃん、  
じつわじ見たこと無い花があるよー。」

まわの「じれじれ。ほんとだ。……わ、なんか戻らんでもたらね

のモ…ふー、パン！」

まひろ「うわあっ！ 爆発したあ！」

ゲホ、ゲホゲホ、なんだこれ、胞子…?

廣川一

「あひるー……!! ハル、くん？」

ミハル「まろりちやん…………僕…………なんだか…………変な気分…………」

まわる「.....<?」

「……」ハル「キミを見てると……だんだん身体が熱くなつて……」

めむ「スル……スル—?」

SE・おひるの瞳を抱く。戦闘ヒロインBGM

ミハル「シヘ、シヘヘ」

S.E.・押し倒される

「やあやあ」「やあやあ！」

「お前が何でここにいるんだ？」

まひろ「んふう、お、おい、ミハル！ あんつ！」

た  
た  
た  
た  
た  
待  
て  
あ  
あ  
あ

夢から覚めてまひろの部屋に転換。飛び起きた効果音などの演出。ガバツ

おらの「…………」やつ。  
…………おお、おお、おあー……

お……恐ろしい夢だった……。  
うう……まさかオレが、エロゲのヒロイン側になるなんてえ……。」「

おわのモノ「……でも、オチはともかく少し、  
女の子になりきるのは結構楽しかったかも……。

毎年のHロケ攻略で培った経験だらうか、  
むしろああこうの體意かもしれないわ。

「…その機能をみはうだけに使うのは勿体ないなあ。  
何か他にも役立つられないものか…」

まひろ「…そりだ、動画配信なんぞいつだらう。  
こや、Hロケやつじやなくて、なんかこう、アイドル的な…

のむ…人前は苦手だけ、直接誰かと会話するわざじゃないし、  
この姿なら身元がバシるような心配もないし…。  
それに…自分で言うのもなんだが、顔も可愛いし

まひろ「…よし、ものは試しだ。ちょっとやつてみるか。  
わひ、上手くいたら儲かるかも…」

のむ・機材を設置し、ソフトを起動。カチッ

まひろ「カメラよし…マイクよし。もう映ってるのかな。  
あーあー、いほん」

まひろ「…、ほんにちなー…まひろでーす!  
…なんぢやつて…

…わひー…思つたよつて聴きかしい…  
やつばやめよつかな…」

のむ・プロン（入場音）

まひろ「わひー…ホントに誰か入つてきちゃつた!  
じじじじじじよー…!」

まひろ「いい、いらっしゃー…  
あ、コメント…  
何年生…? あー、ええーっとお…コホン。

まひろはつじだよー…!  
わ、うん。初めてだから緊張してます…

か、回愛こつてー…う、うへへ、なんか照れるな…」

のむ・プロン・プロン・ローハ

まひろ「わわっ、結構増えた…!  
風間だつてのに、暇な奴らも居るもんだなあ…  
世も末だ…つて、人のことは言えないと」

まわり 「えーっと、ふむふむ、趣味かあ……。  
趣味はHOPPYなうじやなくて！」

最近はMURRAYにハマつてもーすー。

まわりはヒーラーだよー。

え、回復して欲しこー。みんな疲れてるんだねえ。  
じゃあこゝよー、ヒールー！」

まわりモト 「おはな、みこみこ、だんだん樂しくなったやー！」

まわり 「みんなじいじん質問送ってねー。

得意科目は…ほ、保健かな……（汗）

えー、踵るのは無理だよお。  
歌は……普通かなあ。今度歌つてみよっかな?

なにに、兄弟はここのかうひー、歎ほしき質問だな……  
んー、お姉ちゃんが唇るよ。  
あ、そういう、この服もお姉ちゃんが選んでくれてー。  
胸元のリボンが可愛いよね。せりじー！

……え、わつと前屈みに……?  
なんで……？ じつかな……？」

SE…衣擦れ

まわり 「これでここの一……？

……んー、よく見ぬひつ、何が……ハツー！」

まわりモト 「え、ここの……話つたなあ……ー？」（聴）

まわり 「へ、変態じもぬえ……！  
え、ご褒美ですか……？  
ばかー！」

え、つねぐた最高……。  
余計なお世話だーーー。（泣）」

まわりモト 「わわわわー、なんだよ！ わーーー…  
だんだん変な雰囲気になつてもたれ……

……んおおつー。  
なんか、視聴者数がすんじい増えてー。  
……エロかー？ エロの力なのかー？」

のエ…ボクン（新しくコメントが来た音）

……ひえー？

「あらわゆる、なんなじりやねか〜〜〜！  
いや……黙として、氣持わせねからんでもなうが……」

のロードランナー（入場音）

まひるモノ「うわわわ、どんどん人が増えてるしへへへ！」

おひる…………み…………みんな…………ホントに嬉しいの…………(?)

アカヒゲの羽根をもつてゐる。アカヒゲの羽根をもつてゐる。

アーティストとしての鼓動又エターナル

まひろ「じゃ、じゃあ……」

支那の歴史と文化

SE..衣擦れの音。 ドック、ドック…

まひろモノ「あ、ああ……つ、見られちゃう……

みはり 「ただいま～！」

……も、もううつお姉ちゃん！  
勝手に入つて来ちゃだめだよお……！」

みはり「お姉ちゃん……ひひ……ひへへ……」「

おひの「…………み、みせつひ。」

みせの「JRおでこりの旅」が一冊

何して遊んでたの？

の田：拂ひに近い物語物のハ、當時の母語で云ふ所の原形

おひる／お物事／あつ、見ちやだぬ／」

『ねえ姉ちゃん キター』『姉妹共』…………なにこれ？』  
みほり「んー? もうターニー私か映ってね…………

おひる「せ……配信中……動画……」

.....>.....<.....

「あら、金剛！」たぬき……！」

みはり 「!?

お姉ちゃん ちょーっと聞きたいことが

(奴)

卷之二十一

まひろモノ「……この後、事の顛末を知られたオレは

SE・お腹の音ぐー・

まわる「…………あのー、みほりさん、それから」飯…………」

みはり「懸い子は」飯抜れですー。」

まひり「え、そんなん……！」う、ううー……お、お姉ちやーん、まひり、お復讐

みせの「…………」に、いやいや……

も、その手には乗らないんだからね！」  
まひろ「うえええ、ごめんなさうういー！」

軽いBGM（ジングル？）が入っておしまい。

■兼の場『おわらひせじゆいのねのかこ』

おわらひ「あー……あー……むひやむひや……」（寝息）

の田・アマが體も、みせつの掃除機の音が近づく

みせつの「らへらへらへん」（鼻歌）

の田・おわらひの側まで来て掃除機〇田〇

みせつの「わよつとお兄ちゃん・掃除あぬかうわいじーーー」

おわらひ「んぬあー……んーんー……おびー……」

みせつの「わーー、邪魔だひじめーー」

の田・おわらひ

おわらひ「んん……おとひ分ー……」

みせつの「むう……」

の田・掃除機〇田〇

みせつの「えこ」

の田・おわらひを吸う。ズボボボ…

おわらひ「うぐぐええへへ、吸うなーーー。」

の田・掃除機〇田〇

みせつの「田、貰めた?」

おわらひ「はあ……はあ……な、なんいやつだ……  
兄を//のよひー」

みせつの「ガ//ヒメでせぬわなこかど……。

せり、超やたなひじこて。  
ね布団片付けるんだから。よこしょ……んひやー。」

みせつの「な、なに? わ、凄く濡れてる……  
え……うわ、おわらひ、お兄ちゃん……ー。」

「

まひり「く……うわつ、ホントだ……  
…………あり、た、違うぞ？ 違つって……」

えーと……ほり、これだ！  
テーブルの上の飲みかけのジュース！  
寝てる間に蹴って倒したみたい。えへへ……」

みはり「くそくん……確かにこれはオレンジの香り……ほり……

……じゃなくて！

もへへつ、また人の仕事増やして……」

もひり怒ったわ……今日とこり今日も、許さないんだから……  
まひり、「こっちに来なさい！」

まひり「ひり……ひり……！」「勘弁……！」

のむ・ひめあざられていくまひり

外に放り出され、玄関が閉まるガチャフ

まひり「びくくく、外はやだつ、おひかえ入れて……！」

みはり「ちよ、ちょっとやめてよお兄ちゃん！  
ああ、ご近所の田が……

……むり、お遣い頼むだけでしょー。

汚したシーツのクリーニングと、つこでに買ひ物！」

まひり「シーツへりこ家で洗えよー！」

みはり「染み抜きって結構大変なんだから……。

それに買い物してくれないと、晩飯の材料ないし」

まひり「ひひひ……」

みはり「はい、それじゃあお財布と、これ、買ひ物メモ。  
落とさないよつこね」

まひり「ほ、ほんとに行くの……。一人で……？」

みはり「ほー、頑張ってー！」

まひり「みはりのホー、アクリー、白宅警備員虐待だーー！」

場面転換、外へ。効果音や音などで演出。

のむ・ひめあざられてまひり

まひる「はあ……あつたくみはうのやつ……

か弱い美少女を一人で放り出すなんて、  
誘拐でもされたらどうするつもりだ……

そのうえ晩飯を人質にしすむなどとむらこ……  
食べ物の恨みは怖いんだぞ……

……むらこ、クニーイング屋つてどいたつか。

かえで「あれつ？ まひるちやんじやーん！」（少し遠くから）

まひる「ひょえりーん……あ、かえでちやんー」（嬉しそうに）

のむ・駆け寄るかえで

かえで「えつたのーん、今日は一人で、みはうせー。」

まひる「このはかえでちやん。

オレがこの姿になつてから知り合つたみはうの友達だ。  
派手な見た目とはひつひつ、

とてもしつかりした優しいお姉さんで……。

……こや、ホントは母子なんだかど

まひる「ええつと……

オ……わたし、おつかこ中で……」

かえで「おつかこつて、その荷物？」

まひる「う、うん、クニーイングに……せり、シーツ洗つちやつて」

かえで「シーツつて……ああー……。

みはうの酷いなあ、自分で行かせるなよー……」（小声）

まひる「……う、えつたのーん」

かえで「う、うつてー。

あんまり触れないであげよ……（小声）  
……あ、でも、クニーイング屋さんなり

通り過ぎちゃつてるから……」

まひる「く……？」

かえで「あはは……んー、なんか心配だなあ。

仕方ない、お姉さんが付を合つてあげる」

まひろ「ほんとー!? ありがとーかえでちやーん!」

SE・むら

まひるモノ「あ、顔にやわらかおつきいものが……?  
つて、うわああー！ 無意識に抱きつこうとしたツー！」

SE・思わず離れる力ハツ

卷之三

かえて、一……へ！？なにか？ いよいよ、ほり、手つないで、一緒に行く

「う、うん……」

SE・一人の足音。

まひろモノ「はあ、何故かかえでちやんには、

恐るべきお姉ちゃんオーラだ……。  
みはりも少しは見習って欲しいな」

かえで「あ、せり、見てやったよ」

SE・足音がフェードアウトして場面転換  
クリーニング屋へ。

SE・自動ドアの音。  
ドアがしまり、少し足音。

「うー、シシコノゼア……」

かえで「はい、これレシートね。元も蟲のヒガに必要なだから、捨てちゃだめだよ。」

まわる「うん、ありがとう～」

かえで 「あはは……  
けどあのシーツの汚れって、ジュースだったのね……」

まわり 「ん……？ ……あー、

やつれか店員がいるから話したのって、ありますー。」

かれど 「だつてだつて、血刃で叩いたせぬかしこだわいひ黙りへへ。

あたしゆるこひや、経験あるこわ…」

まわり も 「あ、おぬさん……」

かれど 「……やつて、やれじやああたしじめの足で……」

まわり も 「え、かれどゆるこひやの…」

まわり も 「うー、この後の黙って物じやくをやくつて欲しかったの」「…

かれど 「ん…」ねえな…

あたしゆるこひやが行きたかったこといわがおつてへ

まわり 「……はやたこひや…」

かれど 「あ、なんなりまわりがやまと一緒に来ぬ…」

まわり 「……く…」

場面転換、喫茶店へ。

のと・カワソカワソ…

店員 「こひやをこめてー」

まわり も 「うー、喫茶店…」

かれど 「禁煙席ひだり、お願ひつめー」

店員 「一名様ですね、いかくじひ」

のと・少し歩き、かれどゆるこひやの

かれど 「……ひ。せひ、まわりがさわせつて坐つて。」

まわり 「ひ、ひん…」

まわり も 「な、なんだこわ…

トートー。トートーのかー…」

のと・まわり椅子に座る

まわい 「で……なんで喫茶店…？」

かえで 「あはは……えっとね、  
このお店、ケーキがすうじゅう美味しいんだから、  
今日は開店記念日でスペシャルケーキが出るんだ。  
もうじつても食べたくってさー！」

まわいセイ 「意外としそうむなに理由だった……」

かえで 「まわいわいやーと一緒に食べよ。  
おねーゃんの奢りだよー。あ、みはりにはナイショね。」

まわい 「え、ここのーー？」 (ペアラー)

かえで 「飲み物はじつはーー？」

まわい 「待つて待つてー！」

SE・メニューを開く

まわいセイ 「じれじれ……ふーむ、コーヒーか。  
こじは男らしくブリックと言いたいといわだが……  
普段飲まないからなあ……

なになに、アメリカン……ブラジル……uronsantra……  
な、なんだ?…じつはうそだ……(?)

店員 「(注文はお決まり) まわいさん？」

まわい 「……わーい… あわわわ……」

かえで 「ケーキセッタふたつの……あたしブレンジでー」

まわい 「あ、えーと……」「……」「……」  
……「一ツド」

まわいセイ 「な、なわけない……」 (チーン……)

店員 「……お待たせいたしました。スペシャルケーキセッタです」  
SE・テーブルに置かれる皿の音。カチャカチャ。

かえで 「わあ、来た来たー♪ 頂きまーす！  
…んく、おこしーー！」

まわい 「むぐむぐ…んく、あまーーー！」

かえで「あはは、氣に入ってしまったよかって」

のエ・コーヒー・カップを手に取り。

かえで「……、ふう……」（一口飲む）

のエ・コーヒー・カップを置いて。

かえで「……で、みはりって、最近お家でほとんどな感じ。」

まひる「……もへー。（…）へん）

みはり……お姉ちゃん。

むうー……。そりゃあもう酷いもんだよ。すげ怒る。

かえで「へー、みはりが。」

まひる「今日なんて掃除機で吸われてさあ……  
せっかく気持ちよく寝てたってのに……」

かえで「なんだ、仲良こじやん」

まひる「え、こやこや、良くなこよー。」

とじうかく氣持ちよく寝てたってのに……  
おつかい終わるまで帰っていくなーって

かえで「あはは……それは確かにちょっとキツいけど……

まあそれもまひろちゃんのためだと思ひながら。

せひ、可愛い子には旅をさせろー的な。」

まひる「か、かわいい子……。」

かえで「みはりは頑張つてねと思つよ~。

大学で勉強しながら、今は家事も全部自分でやつてみたがでしょ。

偉いよねー

まひる「ま、まあ、それは……」

かえで「あの子なんでも出来るように見えるから、  
あれでちゃんと努力してねただから。

中学の時やつてた陸上部、ちゃんと毎日朝練してたしね。  
そういう、実はお料理はあたしが教えてあげたんだー」

まひる「え、そういうなの？」

かえで「勉強見てやうつ代わうにね。これでも家庭的なんだか！」  
まひる「いたかねみはうに負けてなうと思つた。

「一ん、どかのわうち抜かれやうかも……。

あ、まひるちやんはお料理しなうの？」

まひる「オ、わたしへ。わたしへ……」

かえで「みはうに教えてもやうといこよー。

あとお掃除とかもね。わうと朝うと寝ひだ」

まひる「…………、ハ、ウス……」

まひるちやん「みはう……。」

の正・まひるの「」の氷の音が響く

かえで「んー、なんかいいろう悪い出しておたなあ……。

……あれ、そつこべばみはう、お兄さんいたよね。

ああ、まひるちやんのお兄さんでもあるのかな。

あたしは直接会つたことないんだけど……今度うつしゆの。」

まひる「…………へうー。」

(ハリカルなBGM)

まひる「お、お、お兄ちゃんー。お兄ちゃんは……」  
あ、地方の……すい立派な大学に入つて……。(ぐわう)  
今は遠くで一人暮りしで……。(ぐわう)

まひるちやん「うう、心にダメージが……」

まひる「え、ええと、やねど、あの……」

の正・櫻庭ひづかの「」を倒す。

まひる「うわやーー。冷たつー。」

かえで「わー、大変！ て、店員やーん、タオルか何か……。」

店員「お客様、いかがをー。」

かえで「あ、ありがとうございますー。」

わー、スカートがびしょびしょ……。

もー、大丈夫？ ほり、シリしたぬかえで……。」

まひる「……えつ！ かえでちやん……！ せんなんと」拭いちや……  
あつ、あつ、ひぬへへへー」(ヒロー) ※「メティチックに」  
BG止んで、店を出る一人)

(日曜日止んで店を出る一人)

店員「ありがとうございます」

まひる「…………うう…………足下が冷える…………」

かえで「あはは……風邪引かないよう」ね……」

まひろ「ごめんね、かえでちやん……」

まひるモノ「今田は水難の相でも出でるんだろうか…………？」  
のE・かえでの足音（振り返る感じ）

かえで「……さてと。それじゃあ、あたし歸るね。  
まひるちゃん、今日はやき合っててくれてありがとー。  
一人でちやんと帰れる?」

まひろ「う、うん、大丈夫……。  
あ、ケーキ、ごちそうさまでー。」

かえで「ハーヨー、また遊びつね。ゼニゼー！」

SE・かえで去つて行く

まひる「かえりちゃん、やつぱ良い子だなあ……。  
はあ、オレもそろそろ帰るか。うう、気が重い……。」

場面転換、まひろの家に帰宅。  
SE・玄関をあける

まわる「……ただいまー」

みはり「あ、お兄ちゃんおかえりー。どうだった？」

まわる「……ほれ、クロークハグのレシート。これでいいんだから。」

まひろ「うええ……子供扱いすんなうつ

みせつ「ひひひ……。それで、眞こやのせいせん。」

「……………あつ」

みはり「あつ……つて、お兄ちゃん……まさか……」

まひろモノ「か、完全に忘れてた〜〜〜つ」

みはり いせいせいせいせい  
フリーニンブニサ

「……」シルクだけでなくて「ぐるな時間になるわ」……  
もへへ、どうするのお！ 晩ご飯作れないよお」

卷之三

たまに过生地にひり、床んで賣おうと思ひてゐる  
これでも……感謝、してゐるんだわ。」

みはり 「…………！ お、お兄ちゃん…………

……でも、そんな匂いしい處で騙せられたらしないよ……

お兄ちゃんに頼んだ私も悪かつたしね……

まひろ 「やつた！！ ピザだー！！

みはり 「お弁当です！」

おひる「えー……そんなあ……」

みはり 一たやんと栄養取らないと 大きくなれないよ?」

アリスの世界へようこそ！

おわのモノ「感謝してねってのは、少し本物だわ」と。

まあ、たまには家事も……手伝つてやう、かな?」

みはり 「…………うわっ、よく見たらなんかスカート濡れてるしー  
お、お兄ちゃん…………まさか…………今度(じゆ)…………ー?」

まひる「だ~か~り~、遅~ひ~て~~~~~!~!~!~」

(おしまい)

## ■第4話『まひろと特別自宅警備』

まひろの部屋。  
まひろのお腹が~~あらわ~~。~~あらわ~~。

まひろ「うああ～……腹減った……

今日は皿メシ遅いなあ……むづかしい2時過ぎやうやう。

「さすがにもう我慢の限界だあ！」

の上・おひの端睡のジャケットを脱ぐ、廊下をジャケット進む

まひなーみほりのやーー部屋で寝てるんじゃないだろーな！」

の田：おにぎりの部屋のトドをノンと聞けて

「おひみ」の「ひみ」は「秘密」の「密」の意味で、秘密を守ることを意味する言葉です。

まひる「あ……？」

あ～～～、生理。わかる～…」  
(同情)

SE; みはりガバツと起き上がつて

みはり 「風邪よー！  
…………はう」

SE・アーキテクチャ

まわる「ね~~~~~ー。」ねんーーー。

ほ、ほらー オレモノの前や  
つて、そんなことよりー

みはり「あ……おな……。ん……平氣……。」

薬も飲んだし……寝てれば治るよ……ゴホッ

あ……お皿……！」めんね……？  
リビングの戸棚に……カップ麺があるからや……  
今日はそれで我慢……ゲホッ ゲホゲホ

第十一章  
「我」的三部曲

「……………」ひざにさがりかかる。「ああ……………」ひざにさがりかかる。

まひろ「う……うん……」

のエ・ゆうべり扉を閉める

まひろ「…………みはり…………」

場面転換、リビング。  
のエ・カップ麺を探す。『ルルルル。

まひろ「あ、あつた。カップ麺……」

のエ・湯を注ぐ音。

まひろ「…………」（神妙な面持ち）

まひろモノ「やうこやあいつ、  
ここんとこ実験とかで随分忙しそうにしてたつたけ……。  
あんまり寝てないみたいだったし……」

その上につも通り家事までしなして……

一方オレは……自由気ままのぐうたら三昧……」

まひろ「う……うう……クズだ……。  
オレは……『ガリガリ』の実の『ガリ』人間だあ～～～～！」

まひろ「…………よし」

のエ・椅子からガタッと立ち上がる

まひろ「やるや……やつてやる！ 家事ぐうこなんだー！  
せめてみはりの風邪が治るまでは兄貴らしく……  
…………わ、これもいわば、自宅警備だ！」

のエ・ジャキーンー。

場面転換、脱衣所。

まひろ「……さて、最初は洗濯だな！

とあえず……全部洗濯乾燥機に放り込んで……と」

のエ・洗濯機に洗い物を入れて扉を閉める（ドリーム式です）

まひろ「えーっと、洗剤洗剤……ん、なんかいっぱいあるな。  
なになに……漂白剤……ふむ……じゅう……なん剤……？  
中性……アルカリ性……ま、混ぜるな危険……？  
…………うう……じゃ、じゃあ……よし、コレだ！」

の「…デラ…、デラ…、デラ…」（計量せばボトルから直接）

まひり「んー、これでいいことないかな…~。」

の「…・・・」（スタート音、回り始めの洗濯機）

まひり「ふーつ。激しい戦いだつた…~。」

の「…・・・」（移動、ガチャガチャと掃除機を用意する音）

まひり「次は掃除だ！ わあがに掃除機は使へねえ！」

の「…・・・」（掃除機OFF）

まひり「〜〜〜♪（軽い鼻歌）」

まひり「あ……んこやみせりの食事も必要だよな……。風邪だし——つん、やつぱおかゆかな。仕方ない、用意してやねか……。」

の「…・・・」（掃除機OFF）

まひり「…………。君のやつはねるんだ……~。」

の「…・・・」（スマホを取り出しせ電話かかる。）

かえり「はい、もしもしーーー。まひりがんばー。じつたのーー。」

まひり「あ……かえりちゃん……あの……今平氣……~。」

かえり「ん~。なになにー~。」

まひり「ええいと……お粥の作り方、教えて欲しへり……」

かえり「お粥ー？ 超簡単だよーーー。」

かえり「れなり、みはりに教わるほうが……つい、あ、ひょっとしてあの子、風邪でも引いた？ 大丈夫……？ あたし作りにこつか？」

まひり「え……ホントー~。」

まひり「助かったーーー…………つて……。」

まひり「いや……」（れじやあ結局こいつもと一緒にだ……。）

今田のオレは……ひと味違つぱー。」

まわり「…………。今日せ……自分で作ってみる」  
かえで「！」

…………うんうん、それがここね。みせつめいじゅうよ。

じやあ作り方だけどー、

うつだなあ、冷凍ご飯があれば町ごんだけど……

無かったらまほお米を洗って、水と一緒に鍋に入れ……

あ、水の量はお米に対して……」

(説明の途中で「HARD FAULT」「水の量せ」ボタンで押すOFFへ)

場面転換、みせつの部屋（みせつの視点にならぬか）

みせつ「スー……スー……」（寝息）

の正・アラキノックする音。

みせつ「……んん……、お兄ちゃん……」  
なあにー……。

まわり「せーひみせつ、お粥、作ったたま」

みせつ「…………」

まわり「…………」

の正・みせつの思わず身体を起しき。

みせつ「え…………ー。お兄ちゃんが…………ー。」

まわり「あ…………妹は保證しなじかね…………」

の正・土鍋をまほの机に置き、茶碗に注がる。

まわり「…………せこ」

みせつ「…………ー。う…………」

（つづけて）「…………」「…………」（かみうし井井つぜい）

まわり「おおこー。ななだよー。」（びびつ）

みせつ「ぐく……ぐく……

だ……だつて……お兄ちゃんが…………」まほ

まわり「（器れ）…………こかの食べぐくへへ」

みはり 「うそ～～～ うたうやうやか～～～」

まひり 「え.....えいわ..」

みはり 「.....味がないよお～～～」

まひり 「あ、 塩.....

い、 いやー。 めだた、 塩分控えめいひやつ

みはり 「鹽や多こ～～～」 (おぐ...おぐ...)

まひり 「うう.....」

みはり 「でも嬉しき～～～」

まひり 「.....あ、 せせ.....」

みはり 「ひる.....」

(少やべ聲へ笑つ合ひ一人)

みはり 「レンゲがカチャツ」。

みはり 「.....ひい。 いがんつれせあ。

.....お體でかよつと元氣でたかも」

まひり 「.....そつか。 やーい、 そんじやあ.....

服脱いで。」

みはり 「.....せへ..

.....なななつ、 なにし處」ー～。  
兄妹でそんが..... いや、 今は姉妹だよ～～～

まひり 「だれが姉妹だー せひ、 後ひ向こへ」

(少やべてたよ上手)

みはり 「ひ、 うれえ～～～～～。 うれつ脱がすのー～。

ひやんー～～～あ、 気持つこ～～～」

まひり 「汗かいてるだひり。 腹中拭こひやる

のよ...拭こひやる。

みせつ 「…………。

「…………」

みわい 「『ええ……だかうなで泣くだ』あー。」

みせつ 「『あ……熱のせこ~~~~~。』

みせつやへ 「やへ、なんなの今田せ……調子出つやうだよ……」

みわい 「おひたべ……お、いさんかくかな」

みせつ 「…………お兄ちゃんのトタモへ」

みわい 「おひこりのこで……

あ、前は自分で拭けよ。」

みせつ 「おだの前でしょー。……やー」

みせつ 「…………（みせつ身体をひく）

みせつ 「…………らー。わっせつ……

「ねえね、なんか気を遣わせへ……」

みせつ 「…………みせつ服を着る

みわい 「あ、ああ…………」（ひきこもる）

ほり、着替えたり呼べ横になれ。

暖かくしねよ。じやあ…………電波浴あら」

みせつ 「…………お兄ちゃん」

「…………お兄ちゃん」

みわい 「えー」

みせつ 「…………あつがい」

みわい 「…………」（おせつの懸念）

のと・パチッと電気を漬こ、ルーチェントヒートをみわい

みせつモト 「さう……風邪に感謝しなくつか。」

なんだか少し、昔に戻ったみたい。

一緒に遊んでくれた頃の、優しくお兄ちゃん……

まだまだ普段はダメ人間だけど……  
最近は……前に比べて会話も増えたし……  
やつぱり、女の子になつたのをきっかけに、  
いろいろ上手く回り始めた感じ……。

SE：朝の効果音。鳥の声とか。

みほり「お兄ちゃんおはよー！」

第三回 一 あ  
モハ立候がの方、

みはり 一  
ふふ、おかげさまでね。  
よーし、じゃあさっそく  
溜まつた洗濯ものを片付けますか?」

SE・ホーリー・ムサツ

まひろモノ「ふつふつふ……溜まってないんだなあそれが……あいつ、また感激して泣いたりして……」

みほり「…………うふふふんー」  
の□：（遠く）洗濯機を開け  
洗い物を取り出す部

大事なおしゃれ着が……色移りがあ……」  
まひろモノ「……あ、あれえ?」

SE・怒り氣味に歩いてくるみせり

みはり「……お兄ちゃん……？」（怒）

めわの「せう……せうう……」(共)

「…………」  
「…………」

まひる「いがんわーー！」

まひろ「まったく……誰が嫁だ……って、

みはり「ん～～～～～（少し考えるみはり）  
……ねえお兄ちゃん、もし今元に戻つたらどうするの？」

やつぱ、朝から晩までエロゲ三昧ーー

みはり 「…………（呆）…………はあ。

これはもうじきひべ時間がかかりやうだつ……」「

SE・去つて行くみはり

まひる「……へつ？」

あー！ 今のは無し！  
ごめん！ 待つてえ！

「うやうやしくの女の人生が、まだじまいへ繰り出だす

(おじめ)